

タイトル：自信過剰が男性を競争させる<sup>※</sup>

氏名・所属：

水谷徳子<sup>†</sup>（大阪大学大学院経済学研究科）奥平寛子<sup>‡</sup>（大阪大学大学院経済学研究科）

木成勇介<sup>§</sup>（大阪大学大学院経済学研究科）大竹文雄<sup>\*</sup>（大阪大学社会経済研究所）

要旨：

本稿では、なぜ男性は女性と比べて、自身の成果のみに依存した報酬体系よりも他人の成果にも依存する報酬体系を好むのかについて、日本人学生を対象に実験を行うことで原因の解明を試みる。Niederele and Vesterlund (2007)による先行研究では、競争への嗜好と自信過剰の度合いにおける男女差が原因とされていたが、本稿はこれらの要因に加え、危険回避度とフィードバック回避度（結果を知らされることを嫌う度合い）が報酬体系の選択に与える影響を明示的に取り扱う。分析の結果はつぎのとおりである。（1）男女でパフォーマンスの差はないが、女性より男性のほうが競争的報酬体系を選択する確率が高い。（2）そのトーナメント参入の男女差の大部分は、男性が女性よりも自信過剰であることに起因する。（3）アンケート調査から計測した危険回避度やフィードバック回避度、時間選好率は、競争的報酬体系選択の男女差に対して説明力がほとんどない。（4）男性のほうが女性より競争を好むためであるという説明は限定的であることが明らかとなった。また、男女構成比は自信過剰に影響を与える。男性は女性がグループにいると自信過剰になり、女性は男性がグループにいないと自信過剰になる。

JEL classification： C9, J33, J16, L0

---

<sup>※</sup>実験実施にあたり、村島吉世子さん、中西貴美子さんをはじめ多くの方々にご多大なご協力を頂いた。ここに記して感謝申し上げたい。

<sup>†</sup> fge008mn@mail2.econ.osaka-u.ac.jp

<sup>‡</sup> ege002oh@mail2.econ.osaka-u.ac.jp

<sup>§</sup> dg005ky@mail2.econ.osaka-u.ac.jp

<sup>\*</sup> ohtake@iser.osaka-u.ac.jp